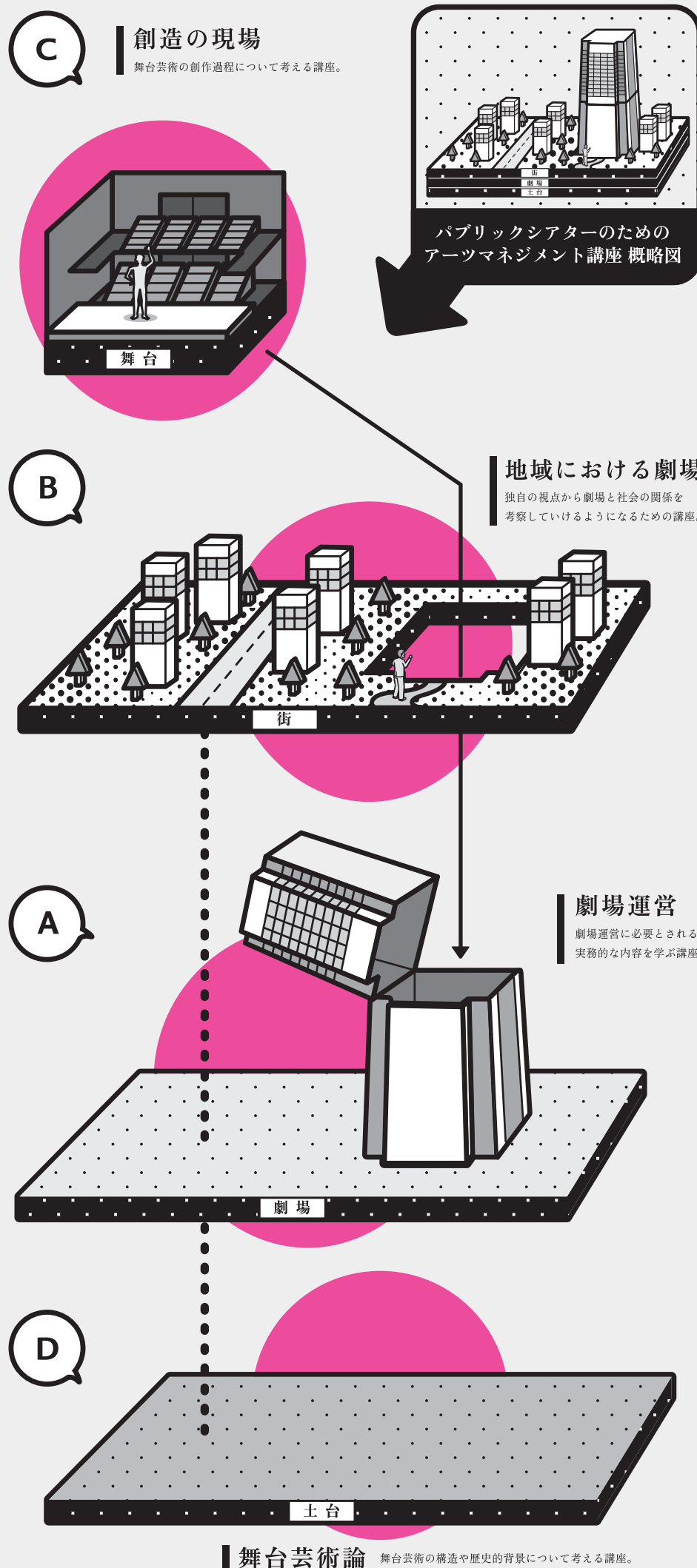




その他の 世田谷パブリックシアターレクチャープログラム

※詳細は決定次第、順次劇場ホームページに掲載しますので、ご参考下さい。

上演作品レクチャー

4月～8月に上演する主催公演を幅広くお楽しみいただくためのレクチャーを開催します。

○『醜男』『笑える話／笑えない話』

7月10日(土)16時～17時30分 講師:新野守広(立教大学教授) 受講料:1,000円

シアターゼミナール

○『ポアールとフォーラムシアター』

6月15日(火)19時～21時 講師:里見実(国学院大学非常勤講師) 受講料:1,500円

世田谷アーティストトーク

Vol.3 6月17日(木)19時～21時 ゲスト:柴幸男(ままごと) 受講料:1,000円

Vol.4 7月22日(木)19時～21時 ゲスト:明神慈(ポカリン記憶舎) 受講料:1,000円

「レクチャープログラム回数券」販売のお知らせ

パブリックシアターのためのアーツマネジメント講座

シアターゼミナール 上演作品レクチャー 世田谷アーティストトーク

①18～24歳の方・・・5回券 4,000円【1講座当たり800円】

※ホームページ右側にある「U24」ページよりお求めいただけます。

②一般の方・・・5回券 6,000円【1講座当たり1,200円】

※ホームページ右側にある「チケット購入」ページよりお求めいただけます。

会場

シアターラム(1F)

世田谷線 三軒茶屋駅

世田谷通り

キャロットタワー

国道246号線

西改札

三軒パティオ(地下通路)

中央改札

田園都市線 三軒茶屋駅

世田谷文化生活情報センター
(5F) セミナールーム
(4F) ワークショッブルーム

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1

交通 東急田園都市線「三軒茶屋」下車 徒歩2分
東急世田谷線「三軒茶屋」下車すぐ
小田急・東急バス「三軒茶屋」下車すぐ

お申し込み・お問い合わせ

世田谷パブリックシアター学芸

Tel.03-5432-1526 Fax.03-5432-1559 ホームページ <http://setagaya-pt.jp/>

【主催】財団法人せたがや文化財団

【企画制作】世田谷パブリックシアター

【後援】世田谷区

【協賛】‘TORAY’ 東レ株式会社

Asahi アサヒビール株式会社

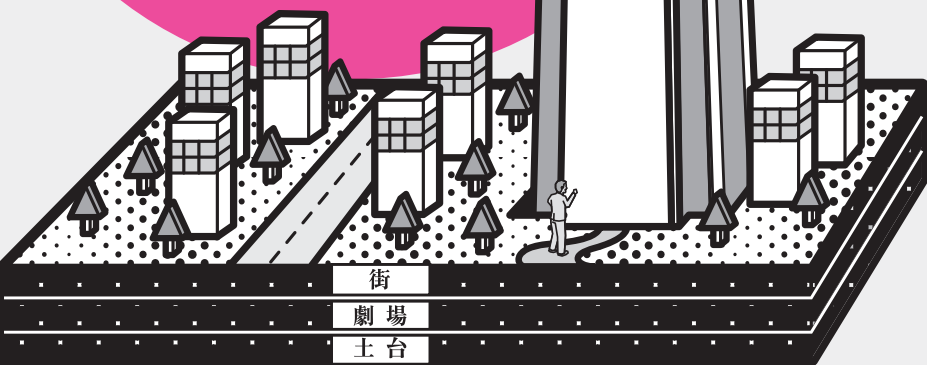
【助成】Asahi アサヒビール芸術文化財団

世田谷パブリックシアター

LECTURE PROGRAM

世田谷パブリックシアターレクチャープログラム

2010年4月
→2010年8月



パブリックシアターのためのアーツマネジメント講座

「パブリックシアターのためのアーツマネジメント講座」は、広い視野に基づいて、社会と劇場を結ぶためのプログラムを企画したり、劇場のディレクションについて考えていけるようになることを目指す講座シリーズです。

A: 劇場運営

B: 地域における劇場

C: 創造の現場

D: 舞台芸術論

で構成される各講座は、劇場運営に必要とされる実務的な内容に留まらず、劇場と社会の関係、舞台芸術の創作過程、社会における劇場のあり方を考えることで、舞台芸術そのものを多角的にとらえなおすことをめざしています。興味に応じてご参加いただける内容です。広くみなさまのご参加をお待ちしています。

『10 パブリックシアターのためのアーツマネジメント講座』 一覧（★は2010年4月～8月、それ以外は2010年後期開講予定）

A：劇場運営

『公共劇場の運営―世田谷パブリックシアターを事例に―』★

『公共劇場の運営』★

『舞台芸術と著作権・契約』

B：地域における劇場

『日本の公共劇場を考える』★

『公共空間と劇場のポリティクス／対話編（その1）』★

『地域社会と芸術』

C：創造の現場

『プロデューサーの仕事』★

『学芸の仕事』

『制作者のための技術の仕事―安全の観点からの理解』

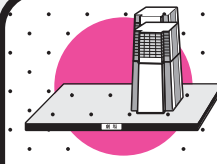
D：舞台芸術論

『ブレヒトにおける演劇と教育』★

『舞台芸術の現在』

『パフォーミングアーツ各論』

※講座内容の詳細はホームページでご確認ください。後期の講座に関しては変更の可能性があります。



A

劇場運営

劇場運営に必要とされる実務的な内容を学ぶ講座。

『公共劇場の運営―世田谷パブリックシアターを事例に―』

世田谷パブリックシアターは、1997年に新しい創造型の公共劇場としてオープンしました。本講座ではこれまでの事例と現状を例に、これまで世田谷パブリックシアターがどのような目標を持って活動してきたのかを検証します。世田谷パブリックシアターの設立経緯から、事業内容の紹介、劇場が実際にどのようなスケジュール・論理の元に動いているのかご紹介しながら、皆さんと共にこれからの創造型公共劇場のあり方を考えていきます。

■『世田谷パブリックシアターの開館まで―設立の経緯』 5月12日（水）19時～21時

■『開館からこれまでの事業展開について』 5月13日（木）19時～21時

■『財政状況と評価（1）』 5月14日（金）19時～21時

■『財政状況と評価（2）』 5月19日（水）19時～21時

■『これからの公共劇場に向けて』 5月25日（火）19時～21時

講師：矢作勝義（世田谷パブリックシアター劇場部）

受講料：5,000円（全5回） ※24歳以下は3,000円（全5回）

『公共劇場の運営』

公共劇場の運営をどう成り立たせていくかは、その公共劇場の存在を支えている地方自治体のあり方、組織の成り立ち、そして、その土地の特色などによって変わってきます。本講座では、公共劇場の運営に携わっていらっしゃる方々をお招きし、どのような芸術方針ならびに運営方針のもと、劇場が公共劇場として地域に根付くための活動をなさっているのかお話を伺います。大きな成果を確実に生みだされている劇場のトップの方々のお話をきくまたとない機会です。初回には世田谷パブリックシアターもお話します。

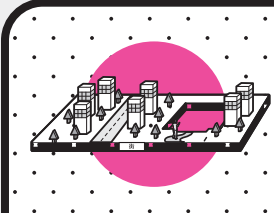
■Vol.1「世田谷パブリックシアターという公共劇場」
6月30日（水）19時～21時 講師：楯屋一之（世田谷パブリックシアター劇場部長）

■Vol.2「鳥の劇場 5年目の経過報告」
7月16日（金）19時～21時 講師：中島諒人（鳥の劇場主宰）

■Vol.3「二十年後のために ―― 社会における劇場の役割」
8月6日（金）19時～21時 講師：宮城聡（SPAC芸術総監督）

■Vol.4「公共劇場は、誰のものか」
8月19日（木）19時～21時 講師：大石時雄（いわき芸術文化交流館／アリオス 支配人）

受講料：各回1,500円



B

地域における劇場

独自の視点から劇場と社会の関係を考察していけるようになるための講座。

『日本の公共劇場を考える』

多目的ホール、貸し館運営を中心とした公共文化会館から一線を画した「公共劇場」が全国各地に生み出されるようになってから十数年がたちました。しかし、各公共劇場がそれぞれの地域で果たしている役割そして課題は劇場を取り巻く環境によって異なり、「公共劇場」の存在基盤は未だ脆弱です。本講座では、異なる専門分野の講師をお招きし、日本の文化政策、地方自治体との関係、法律、歴史などさまざまな切り口より、各地域の公共劇場に共通する「公共劇場」について再考し、現在抱える課題について考えていきます。

■Vol.1「地域に残すための劇場・音楽堂を育てる―公設から公共へ」
4月7日（水）・9日（金）19時～21時 講師：草加叔也（空間創造研究所代表）

■Vol.2「劇場法（仮称）の提言が目指すもの」
4月16日（金）19時～21時 講師：大和滋（社団法人日本芸能実演家団体協議会芸術文化振興部部长）

■Vol.3「公益法人改革の現状とこれから」
5月26日（水）19時～21時 講師：片山正夫（財団法人セゾン文化財団常務理事）

■Vol.4「文化政策の現状と将来―劇場を中心として」
6月16日（水）19時～21時 講師：門岡裕一（文化庁文化庁芸術文化課文化活動振興室長）

受講料：各回1,500円

『公共空間と劇場のポリティクス／対話編（その1）』

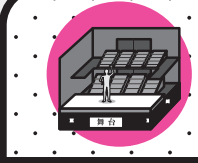
日本における公共劇場が、「公共」の「劇場」として機能し、日本の社会の中で成立していくために、あらためて向き合わなければならない「公共」という概念と演劇／劇場空間との関係性について考えます。民衆演劇、古代ギリシアの演劇、街における公共空間の3つをキーワードに3名のゲストをお迎えします。ゲストの方のお話を出発点として、鴻英良さんを聞き手にディスカッション形式で進めていきます。

■Vol.1「被抑圧者の演劇」
7月2日（金）19時～21時半 ゲスト：里見実（国学院大学非常勤講師） 聞き手：鴻英良（演劇評論家）

■Vol.2「ギリシア演劇とその社会的・もしくは政治的、あるいは歴史的背景」
7月17日（土）19時～21時半 ゲスト：久保田忠利（東海大学教授） 聞き手：鴻英良（演劇評論家）

■Vol.3「公共圏の私物化と芸術家の活動」
8月5日（木）19時～21時半 ゲスト：小川てつオ（カスリッパ） 聞き手：鴻英良（演劇評論家）

受講料：各回1,500円



C

創造の現場

舞台芸術の創作過程について考える講座。

『プロデューサーの仕事』

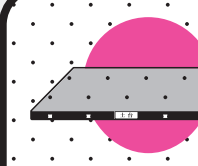
世田谷パブリックシアターのプロデューサー3名が、世田谷パブリックシアターでの舞台芸術作品創造事例に基づいて、「公共劇場」で作品をプロデュースすることの意義、これからのプロデューサーに求められる視点をあらためて考えます。『醜男（ぶおとこ）』、『偶然の音楽』、『にんぎょひめ』といった国内演劇作品から、『春琴』、『エレファント・パニッシュュ』、『The Diver』などの国際共同製作作品、そして『遊*ASOBU』などのダンス作品などの具体的な制作過程を実例に、実践的に話を進めながら、今後の劇場の方向性にも触れていきます。

■『国内演劇作品のプロデュース』 8月3日（火）19時～21時 講師：根本晴美（世田谷パブリックシアター劇場部）

■『世田谷パブリックシアターのダンスプログラムって？』
8月11日（水）19時～21時 講師：三上さおり（世田谷パブリックシアター劇場部）

■『国際共同製作作品のプロデュース』 8月18日（水）19時～21時 講師：穂坂知恵子（世田谷パブリックシアター劇場部）

受講料：3,000円（全3回） ※24歳以下は1,800円（全3回）



D

舞台芸術論

舞台芸術の構造や歴史的背景について考える講座。

『ブレヒトにおける演劇と教育』

演劇とはつねにコミュニケーションが成り立つ場であると考えていたブレヒトの立場からは、演劇を「社会にどのような影響を及ぼしうるか」という問題意識なしに語ることはできません。ブレヒトが示唆した演劇の社会的応用可能性は、のちのドイツ語圏を中心としたヨーロッパにおける演劇の教育的応用や、世界中の演劇を用いた社会運動に、一定の方向付けを行いました。その原点となる「教育劇」の成立経緯や作品の世界、そして、それが世界に与えた影響について考えていきます。

■『ブレヒトが「教育」に近づいた経緯』 6月24日（木）19時～21時

■『ブレヒト教育演劇の「教育」内容』 7月1日（木） 19時～21時

■『ブレヒト教育演劇論の継承』 7月8日（木） 19時～21時

講師：中島裕昭（東京学芸大学音楽・演劇講座分野教授） 受講料：4,500円（全3回）